

旧大宮小学校プールでのどじょう試験養殖について

7月24日、旧大宮小学校で取り組まれているどじょうの試験養殖の様子を伺って来ました。

大宮小学校が平成18年に廃校となりました。その際、地区の住民にアンケートを行い、校舎は取り壊さず、地域で活用していく事となりました。同年、日南町では旧校区ごとに「まちづくり協議会」を設置。校舎は町より貸与され、地域活動の拠点として活用されています。

今回、大宮地域振興センター 事務長 西村幸治様、どじょうクラブ代表 西村利史様に、活動の一つとして行われているどじょうの試験養殖のお話を伺って来ました。



西村様:

大宮は日南町の中でも気候が厳しく、他の地域に比べて森林が成長するのに時間がかかるようなところでした。たたら製鉄が終焉を迎えてから、米子地区の製紙工場向けに松を植林しましたが、これはあまり上手くいきませんでした。昭和30~40年頃までは木炭の生産も盛んに行われていまして、大宮炭というブランドもあったくらいです。

学校が廃校になり、施設の有効活用を考えていた時に、安来の業者から学校のプールでもどじょうの養殖が可能であるとの話を聞き、平成19年に安来でどじょうの購入をしてきました。平成20年には鳥取県の漁業栽培センターで採卵技術指導を受け、試験養殖に取り組んでいます。

かつて、どじょうは山村の蛋白源として貴重なもので、当地にも縁のある生産品であるとも言えます。どじょうの旬は秋なのですが、注文に応じて収穫をしており、日南町周辺の食堂などに出荷をしています。栄養価も高く、評判もよいです。他の地域では、田んぼを掘り下げて養殖を行っているところもあるそうですが、大宮ではプールを利用した養殖を行っています。

来年は道の駅が日南町に開業することもあり、日南町の特産品として売り込みしていくことについても研究を進めています。

以上のようなお話を伺う事が出来ました。

学校が廃校となる事は地域にとって非常にショックな事です。その際に、遊休となる施設を利活用し、地域の気候や文化に踏まえた新しい産業への挑戦が行われているのは興味深いものがあります。

取材へのご協力、ありがとうございました。

山林情報バンク事業開始にあたり、皆様のご意見・ご相談をお伺いします

NPOでは、「山林情報バンク事業」を進めています。事業推進にあたり、町外山林所有者様の山林に対するご意見、ご相談等がありましたら、ご連絡をお願いします。ご意見等は、役場・森林組合等、然るべき部署に連絡いたしまして、問題の解決への方法を探ってまいります。(山林情報バンク担当:池田)までお願いいたします。